

慧林寺便り

鳩摩羅什くまらじゅうと阿弥陀經

そして觀無量寿經

鳩摩羅什（クマラジーヴァ三四四―四一三）は中国の人で大乘教典の經典編纂者の一人です。

特に仏説阿弥陀經を翻訳したので有名です。西域のクチャに生まれました。七歳で出家し、九歳でカシュミールに赴いて小乗仏教を学び、一切經有部の教學を学びます。十二歳でクチャに戻ったと記されています。既に名声は広く知れ渡っていたと言います。

その後大乘教典に出会い、小乗を捨て大乘に転向したと伝えられています。『中論』『百論』を誦し『般若經』を讀誦して大乘の奧義を極めたのです。その後、不慮の事態に会い、不遇の十八年を過ごしたのち、後秦の姚興が後涼を討つて、長安に迎え入れられたのは四〇一年のことでした。

その後、十年間に三百卷

を超える訳出がなされたのです。その半数は『中論』の中觀論書が訳出された意義は大きかったと言わねばなりません。

ここで、阿弥陀經に「極樂淨土」と出て参りますが、阿弥陀仏がその本願を成就して実現した世界と言われています。

この世界を鳩摩羅什は「安樂」とか「安養」と訳語を使っています。サンスクリットでは「樂のあるところ」とあります。教典編纂者たちの描いた、壮大で華麗な理想世界としての概念というべきではないでしょうか。

このように、淨土思想はインドにおいて広く展開した形態を残しています。その過程もしくは発展の中で、中央アジアから中国へ流伝した淨土教、したがっ

て善導とも深い関わりを持つ「觀無量寿經」が上げられることになるのです。

この翻訳は劉宋の薑良耶舍（カーラヤシヤス、三八三―四四二）で、かの善導大師もこの釈文を引いていることがよく理解できました。經典の内容は以下の通りです。

父母を殺そうとする阿闍世王の母、韋提希の求めに応じて、釈尊がまず極樂往生のための三種の福徳（三福）を示し、ついで阿弥陀仏とその極樂世界を觀想する十三種の觀法を詳説し、さらに極樂に往生するための九種の在り方（九品往生）を三種の觀法の形で説き、合わせて十六觀によつて極樂往生思想を高揚させたものです。

（住職）

除夜の鐘と修正会 中止のご案内

今年も残りあとわずかなり、恒例の除夜の鐘が目前に迫って来ました。

しかし、今年度の除夜の鐘は北海道における新型コロナウイルス感染拡大及び、警戒ステージ3（札幌市はステージ4）に引き上げられたことを受け、中止とさせていただきます。

十二月三十一日午後十一時三十分頃、御住職の第一打、副住職の第二打に続き、合計百八打の鐘を打たせて

いただきます。

夜空に響く鐘の音に、過ぎし一年の思いと来年の希望が交差する清らかな瞬間です。

新年交礼会 中止のご案内

毎年一月九日に慧林寺にて新年交礼会を予定しておりましたが、令和三年度の新年交礼会は新型コロナウイルス感染拡大の為、中止とさせていただきます。

毎月九日十日の定例法座はさせていただきます。

令和三年度 年回法要表

回・忌	死 亡 年	回・忌	死 亡 年
1 周忌	令和2年（2020年）	(23回忌)	平成11年（1999年）
3 回忌	令和元年（2019年）	25回忌	平成9年（1997年）
7 回忌	平成27年（2015年）	(27回忌)	平成7年（1995年）
13回忌	平成21年（2009年）	33回忌	平成元年（1989年）
17回忌	平成17年（2005年）	50回忌	昭和47年（1972年）

上の表は令和三年度の年回法要に当たる死亡年を表したものです。

年回法要は祥月命日の当日か、それより早めにお勤めするのが一般的です。また二十三回忌と二十七回忌を併せて二十五回忌にお勤めされても大丈夫です。

亡き人の報恩を忍び、家族・親類が仏前に集い、仏縁を通して仏教の教えを戴きましょう。

婦人会だより

去る十月三十一日、令和
二年度慧林寺婦人会報恩講
並びに会員物故追悼法要が
厳修されました。御生前、
聴聞にはげまれ婦人会にご
尽力いただきました方々を
偲びお参りさせて頂きまし
た。

また、三月に得度しまし
た大智へ婦人会から薄紫の
五條を頂き、お披露目させ
て頂きました。

ご住職に御話をしていた
だきました後、本山より本
多良広氏（Shall）
による法話ライブがありま
した。

終了後、総会に移り、決
算報告、監査報告に続き次
年度の婦人会行事予定など
の報告がありました。



平成三十年十一月
令和元年度十月までの
物故者会員

・ 福島 淑江
・ 雨下トシ子
・ 丸山アサエ

○婦人会費

年四回、小冊子『さくら』
を配布しています。

年 二五〇〇円

新会員の参加をお待ち申
し上げます。



お寺の

伝道掲示板から

先祖は自分の中に

生きている

先祖の徳に感謝しよう

便利な世の中なのに

不便を感じ

心貧しい私

人生上り坂もまさか

下り坂もまさか

平坦なのはよりまさか

お知らせと

お願い

● 声明講習会

十二月九日(水)

一月十日(日)

二月九日(火)

午前十一時より一時間程度練習致します。

二十五日の婦人会定例の前にも自習となりますが声明講習がございます。

● おみがきのお手伝いはありません

● 維持費・管理費の納入のお願い

御門徒の皆様には厳しい経済状況の中、寺の健全運営に御理解・御協力を賜り誠に有り難うございます。

毎年、維持費

年 九〇〇〇円

浄蓮堂(納骨壇)をお持ちの方には管理費として年 五〇〇〇円

をお願いしております。

尚、令和二年度納骨堂管理費が未納の方には郵便振替用紙を同封してあります。

恐れ入りますが今年度中に納入下さい。

● 年末年始の休み

十二月二十九日から一月四日迄、月参りはお休みとさせていただきます。

休み期間中の月忌参りの御門徒様には日にちを変更してお参りさせて頂きま

す。
尚、祥月・年忌法等の臨時法要にはお伺い致します。

編集後記

今年はコロナ禍による外出自粛により、季節を感じる行事が尽く中止となり寂しく感じます。まだまだ不安なことと思いますが、皆さまお身体に気を付けて過ごして下さい。



令和2年12月5日発行

「慧林寺便り」第111号

札幌市豊平区豊平4条8丁目1-2

浄土真宗東本願寺派

慧 林 寺

発行人住職 羽 部 大 仁

電 話 811・7624番

FAX 811・2828番

振 替 027017148368

ホームページ <http://erinjinet>

E-Mail info@erinjinet